

佐藤優著「佐藤優の国際ニュース解説室」クーリエ・ジャポン、2010年10月号、講談社刊を読む

英語の学び方

1. ときどき、「私は英語が苦手だからフランス語を勉強する」、「韓国語は日本語に近いから英語と違ってすぐに上達する」などという話を耳にしますが、こういう気構えで勉強しても外国語をマスターすることはできません。外国語の勉強で必要とされるのは、まず受動的な知識です。特に読むことです。外国語を読むために覚えなくてはならないことは、語彙ごいと文法だけです。どの外国語を学習する場合も、その基本は変わりません。聞く力、話す力は、読む力があれば、当該外国語が使われる環境に投げ込まれば、自然につけてきます。書く力に関しては、特別の訓練が必要になります。
2. 学習教材もたくさんあり、語学留学の機会も増えているにもかかわらず、日本人の英語力が落ちているのはなぜでしょうか？理由は2つあります。まず、動機です。教養として英語を身につけたいという中途半端な動機では、集中力が続きません。2つめは国語(日本語)力の問題です。国語の力が不十分な人が、外国語を習得することはできません。それだから、現状で日本の小学生に英語を必修化するというのは、間違った発想です。
3. もっとも、日本の公用語を英語にするというならば、そういう考えも成り立ちます。スウェーデンやノルウェーでは、そのような観点から、それこそ幼稚園児から英語を勉強するシステムになっています。しかし、同時に自国文化を保全するために、スウェーデン語、ノルウェー語、さらに自国の歴史や文学についての教育に特に力を入れています。日本が国策として英語を公用語化するならば、日本語、日本神話、日本文化の教育を小学校レベルからあわせて行うカリキュラムが必要とされます。
4. 日本の学校英語が実用性をもたないというのは嘘です。学校英語の内容をきちんと習得していれば、国際社会でも十分に通用する英語力が身につきます。むしろ、高校の段階でほとんどの生徒が授業についていけなくなる学校教育の実情に、日本人の英語力低下の原因があります。成績が優秀な生徒でも、大学入試に合格するという短期的目的のために英語を勉強しています。そのため、大学に入学するという目的を果たすと、嫌々覚えた英単語や文法を忘れてしまうのです。

5 . 社会人で英語をもう一度、勉強し直そうと考えている人には、『英語四週間』(大学書林刊)を勧めます。小学校しか卒業していない読者を対象に、英語の総合力をつけるために松本環^{たまき}先生が1930年に上梓^{じょうし}した初心者用教科書です。戦後、比較言語学者として著名な半田一郎先生(東京外国語大学名誉教授)が改訂し、現在も生き残っている名著です。私はいま半田先生から琉球語を教わっています。半田先生は、20近くの外国語を解します。『英語四週間』について、半田先生は筆者に「英語の基礎知識だけでなく、言語とは何かをわかりやすい表現で書いた」と述べましたが、確かに、日本人が外国語を勉強するコツをこの本によって知ることができます。

6 . 参考 - 今月の教科書 -

英語四週間 松本環 / 半田一郎 : 著 大学書林刊

1930年に刊行され、今なお版を重ねる超ロングセラーの英語参考書。アルファベットの成り立ちから、発音や文法、単語まで、4週間で中学校卒業程度の英語力を身につけるために書かれている。

P71

[コメント]

外交官であった佐藤優先生の英語の学び方。語学の秀才でなければ務まらない激務の前提になる英語力の身につけ方がよくわかる。大いに参考にしたい。名著「英語四週間」も大いに学ぶべき。

- 2010年8月28日 林 明夫記 -